

New York コラム

第 24-2 号

ニューヨーク国際現代家具見本市 (ICFF) ～世界に飛び出す日本の家具・インテリア技術～

【はじめに】

ニューヨークで毎年5月に開かれる北米最大規模のデザイン関連イベント「ニューヨーク・デザイン・ウィーク」。その中核イベントとして、今年も国際現代家具見本市 (ICFF) が開催され、多くの日本企業が出展した。本コラムでは、今年 ICFF に参加した、北米市場での販路開拓・拡大に挑戦する京都の中小企業3社の出展の様相を紹介する。

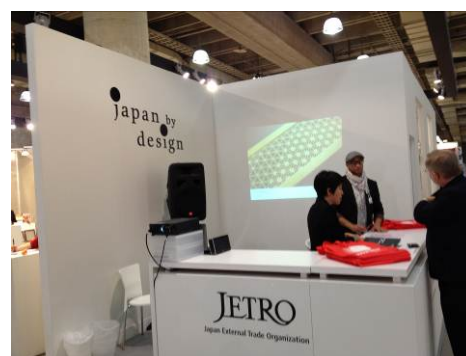
【国際現代家具見本市 (ICFF)】

第24回「ニューヨーク国際現代家具見本市 (International Contemporary Furniture Fair : ICFF)」は、5月19日から22日の4日間、ハドソン河畔に位置するニューヨーク市内最大級の展示会場ジャビッツ・コンベンションセンターで開催された。当見本市は、北米最大級のコンテンツポラリー家具・インテリアデザインの国際見本市として、ニューヨークのみならず毎年世界の業界関係者から高い注目を集めており、情報発信には影響力がある¹。

【ジャパン・パビリオン】

日本からは、独自でブースを構えた企業のほか、ジェトロが、「ジャパン・バイ・デザイン」をテーマとしたジャパン・パビリオンを出展し、信用金庫取引先を含めた中小企業16社が、モダンかつデザイン性のある家具、インテリア製品、内装材などを出品した。なお、この16社のうち、9社が今回初出展である。

今年のジャパン・パビリオンの特徴は、世界各国で著名ブランドの店舗内装等を請け負う建築事務所が多いニューヨークの特性を反映し、16社中10社が内装材を出品する企業であったことである。各社は、建築家やインテリアデザイナーなどとのビジネス関係構築を目指した。



「ジャパン・パビリオン」入口

¹ インテリアデザイナーをはじめ、小売業、製造業、建築家など世界中から毎年2万人超の業界関係者を集客している。

【京都の中小企業が「職人技部門」賞を受賞】

開化堂²（京都市下京区）は、金属製の手作り「茶筒」製造の老舗である。同社の茶筒は、長年使い込むごとに手触り、風合いが変化するという特徴がある。海外向けは、欧州を中心に10か国でビジネス展開し、ハイエンド層をターゲットとする小売店を中心に販売実績を有している。これまで欧州の展示会に出展し、デザインで定評を得た経験があり、伝統技術に理解を示す欧州で受け入れられるのであれば、米国でも必ず受け入れられるとの考えから、今回



開化堂の展示ブース（その1）

ICFF への出展に至った。欧州の展示会では卸会社のスペースを借りた部分的な展示に留まっていたものの、今回はジェトロの協力を得て、初めて単独での出展となった。

茶筒は本来、緑茶を湿気から守って保存するための物であるが、今回の出展にあたり、大きめの茶筒を用意し、コーヒー、ナッツ、パスタなど、海外の家庭におけるキッチンでの汎用性をアピールしたところ、伝統的な茶筒製造の技術を現代風にアレンジした点が評価され、今回、「ICFF エディターズ・アワード」（職人技部門）を受賞することとなった。同賞は、在米インテリア専門誌のトップ編集者6名が審査員として選定し、審査は会場において事前予告なしの抜き打ちで実施される。なお、日本の企業による受賞は、ここ6年間で4度目であり、ジャパン・パビリオン出展企業（中小企業）の受賞は、2010年に片岡克仁デザイン事務所（徳島県徳島市）が受賞して以来2度目となる。

同社の八木取締役は受賞について、「もともと欧州では高い評価を頂いていたが、米国でもやっと花を咲かせることができた。」と嬉しそうに語ってくれた。今後の展開として、「今回ブースを訪れたデザイナーの方々と、日本同様に密接な関係を構築して、米国市場に食い込んでいきたい。」と意気込みを語ってくれた。



開化堂の展示ブース（その2）



開化堂の展示ブース（その3）

² <http://www.kaikado.jp/>

【他の日本からの出展企業事例】

株式会社細尾³（京都市中京区）は、西陣織の帯地製造販売の老舗である。ICFFへは前々年から連続して3度目の出展となるが、過去にはICFF出展がきっかけとなってニューヨークの建築事務所に見初められ、海外高級ブランドの旗艦店におけるソファの張り地や壁紙等を受注した実績もある。今年も別の高級ブランドの目に留まったようで、同社では「毎年継続して出展することで、米国でのネットワークを広げたい。」という方針を持っている。

同社も当初から海外で成功していた訳ではない。元々は帯用の幅の狭い生地しか製造していなかったが、インテリア用に幅の広い生地を製造できるようになってから、海外でのビジネスが軌道に乗り始めた。

日本では、帯、着物など最終製品を多く扱っているが、ICFFでは、素材、技術を売ることが目的に、生地のみでの展示に焦点を当てている。デザインも、純和風な風合いではなく、ニューヨークという土地柄を意識し、現代風な柄を中心に据えるなど、西陣織の老舗という伝統に拘らず、あらたな伝統を生み出す試みに取り組んでいる。



細尾の展示ブース（その2）

株式会社ルシエール・ジャパン⁴（京都市西京区）は、「京都洛柿庵」というブランド名のもと、手染め麻のれん、細タペストリーを製造している。同社は従前よりニューヨークでの見本市への出展を目標として、これまで欧州各地の展示会に参加し実績を積み上げていたが、今回、遂に初めての出展に至った。

同社は海外見本市に出展するに当たり、日本では展開していない全く新しいデザインを考案している。今回の出展も、米国で個別の最終製品を売り出すことが目的ではなく、自社デザインに対する米国の来場者の生の声を聞いて、商品開発に役立てる狙いがあった。

「ICFFへは、今回初めての出展だったが、米国のデザイナーのダイレクトな反応に驚いている。」と語ってくれた村田代表取締役社長。欧州で展示したときよりもデザイナーの反応が速く、確かな手応えを感じているようであった。



京都洛柿庵の展示ブース

³ <http://www.hosoo.co.jp/>

⁴ <http://leciel-japan.com/>

【おわりに】

リーマンショック以降、世界のバイヤーのニーズは変化しており、目新しさ、デザイン性、量より質という3つの特徴が鮮明になってきている。実際、日本の伝統的技術の1つである茶筒が賞を受賞したことから裏付けられるように、日本が持つ技術力、製品の奥深さは、世界でも認められている。会場内においても、ジャパン・パビリオンの人気は他国に比べて高かった。

今回取材した企業に共通する点として、日本の伝統的技術をベースにしつつ、製品の利用方法やデザイン等について、海外で受け入れられるための工夫をしたうえで見本市に出展していたことが挙げられる。一度の出展で大きなビジネスにつながることは稀であるものの、各社とも「米国の来場者はストレートでスピード感のある反応を示してくれる。」と口を揃え、今回の出展で得た経験や情報に確かな手応えを感じていた。販路拡大に悩む多くの企業にとって、こういった取り組みは参考になるのではないだろうか。

以 上

「ニューヨーク国際ギフトフェア 2012 夏展」 視察のご案内

ジェトロは、ニューヨーク国際ギフトフェア 2012 夏展の会場で、今後、北米での見本市出展などを検討している企業を対象に、個別相談を実施する。先行他社の出展事例を視察すると同時に、在米のジェトロコーディネーターから直接アドバイスを受けられる機会となっている。

会期：2012年8月18日（土）～8月22日（水） 5日間

開催地：米国・ニューヨーク [Jacob K. Javits Convention Center]

出品対象物：デザイン性のある雑貨・日用品、ギフト用品など

詳細は E-mail (jetrony@jetro.go.jp)

執筆：信金中央金庫 ニューヨーク駐在員事務所 (2012.7.10)

(文中意見にわたる部分は筆者の個人的意見であり、必ずしも信金中央金庫の見解を反映させたものではありません。本レポートは、掲載時点における情報提供を目的としています。したがって施策実施・投資等についてはご自身の判断によってください。また、本稿は、執筆者が信頼できると考える各種データ等にもとづき作成していますが、当事務所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。)

信金中央金庫 ニューヨーク駐在員事務所 TEL (国番号1) -212-642-4700